

国頭字民有志が、村づくりを観光面から考えようと動き出した。黒糖焼酎を酌み交わしながら会の名称を議論して、「国頭観光ガイドクラブ」が誕生。和泊町でも地域活性化事業を創設した。仲間の役場職員OBが、書類を作成して応募した。町から補助金ももらえて、活動が活発化し、会員もやりがいを感じた。活動の一環としてガイドマップを作ることにした。A4判に載せる景勝地14カ所の写真撮影と説明文の検討を、私は浮き浮きした気持ちで楽しんだ。

2016年2月、13人の会員で会則も検討した。会員のコミニケーションが深まり、次々とステップアップしてきた。

3月には、パンフ「国頭観光ガイドマップ」が完成した。表紙には国頭字の地図を入れ、14カ所を番号で表示した。「生活に密着した景勝地」

観光ガイドクラブ誕生

西村 富明

(沖永良部国頭・西村書齋主宰)

水「『ソテツ林歌碑』食糧難時代の代用食クラブゲーやみその原料」「フーチャ（カルスト地形）」潮吹き上げ洞窟」「砂葉（ハマユウの群生地）」3万本以上群生

「『天皇杯受賞記念碑』92年に『村づくり日本』になつた」「『表忠碑』戦没者91人を祀る、毎年平和を願つて慰霊祭をしている」

活動例を一つ。ことし2月、2泊3日の東京からのツアーを迎えた。これは東京の旅行会社の企画で、日本キューバ友好協会の会員が応募して実現した。旅費は11万5千円で、10人が参加した。旅行団は、字民との一晚の交流が心に残つたとのことである。食事をしながら懇談し、琉球舞踊や島唄に感激していた。景勝地を案内した後、字民と黒糖焼酎を酌み交わす交流会が、旅行者への最高のもてなしであることが分かった。